

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14264

研究課題名（和文）卒業生調査による地域人材育成教育の中長期的な教育効果の検討

研究課題名（英文）Mid- to long-term educational effects of education for regional human resource development through a survey of graduates

研究代表者

中里 陽子（Nakazato, Yoko）

鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・講師

研究者番号：60644820

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：近年、地方大学を中心として、地域人材育成を志向した教育実践が進められている。これらの実践は高い教育効果を上げているものの、その検討は在学生の学習成果を対象とした短期的な効果にとどまっていた。本研究では、地域人材育成教育の教育効果の調査対象を卒業生に広げ、大学における地域人材育成教育が卒業後の地域活動にもたらす中長期的な教育効果を検討することを目的とした。本研究では、地方公立A大学の地域人材育成教育の受講経験を持つ卒業生148名を対象とした追跡調査を実施した。大学の地域人材育成教育が卒業後の職務や社会人生活全般に影響を与えていることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義や社会的意義は、次の2つである。

第1は、卒業1年～27年の卒業生を対象とした追跡調査を行うことにより、大学における地域人材育成教育の中長期的な教育効果を検討した点である。これにより、地域人材の成長過程とそれに与える大学の地域人材育成教育の影響力の明確化を目指すことができた。

第2は、従来個々に検討されてきた教養課程や専門課程における地域人材育成教育の効果を同時に検討する点にある。これにより、教養課程や専門課程における地域人材育成教育の相乗効果を検討することが可能となり、大学における効果的な地域人材育成システムの理論的な体系化を目指すことができた。

研究成果の概要（英文）：Educational practices oriented toward regional human resource development have been promoted, mainly at regional universities. Although these practices have produced high educational effects, the study of these effects has only focused on the short-term ones affecting the current students' learning outcomes. This study aimed to examine the medium- and long-term educational effects of university education for local human resource development on local activities after graduation by expanding the scope of investigation to include graduates. A follow-up survey was conducted on 148 individuals who had studied regional human resource development at a local public university and had graduated. The results suggest that the university's regional human resource development education has impacted their post-graduation work and overall life.

研究分野：高等教育論

キーワード：地域人材育成

1. 研究開始当初の背景

【学術的背景】地方創生に関わる大学へのニーズは高まっている。その一つとして、地域活性化を支える人材(地域人材)の育成が地方大学を中心として強く求められている。こうした期待を受け、近年では多くの地方大学が地域活性化への貢献意欲や地域人材としての必要スキルを向上させることを目的とした教育実践に注力するようになった。現在は、教養課程や専門課程においてボランティアやサービスマーケティング等の学生参加型学習プログラムが導入されている。

地域をフィールドとした学生参加型学習の教育効果を高めるため、従来の研究では主に、学生参加型学習における受講生の学習過程と学習成果の検討が行われてきた(中里・津曲, 2017; 木村・河井, 2015; 木村・中原, 2012)。また、それらの教育効果を高めるための条件として、学生アシスタントや ICT を活用した授業環境に着目し、それぞれの教育効果の定量的検証も進められてきた(中里・吉村・津曲, 2015; 佐藤・津曲, 2017)。

しかしながら、これらの教育実践の効果はプログラム終了時点の学習意欲や能力向上度など、在学生を対象とした個々のプログラムの短期的な効果の検証にとどまっている。地域人材育成教育を通して高度な地域人材を輩出するためには、地域人材育成教育が在学中だけでなく卒業後の地域貢献意欲や継続的な地域活動に効果をもたらすメカニズムを解明し、地域人材育成教育のプログラムや全体的なシステムを継続的に改善することが望まれる。

【着想に至った経緯】申請者はこれまで、本研究で調査対象とする地方公立 A 大学の地域人材育成教育プログラムを対象とした研究を行ってきた。A 大学では、教養課程から専門課程に至るまでに地域をフィールドとした多くの教育活動が導入されており、申請者は A 大学の教養課程や専門課程における地域人材育成教育受講生の学習過程や学習成果の定量的な検討を進めてきた(中里・津曲, 2017)。

個々の教育プログラムの受講満足度そのものは高く、学習成果も一定の効果を上げている。ところが、それらが卒業後の地域活動にどのような影響を与えているかは検討されていない。地方大学で取り組まれている教養課程や専門課程における地域人材育成が、プログラム単独あるいはプログラム間の相乗効果として卒業生の地域活動にどのように影響しているかを明らかにすることで、大学全体の効果的な地域人材育成システムの確立に寄与できると考えるようになった。

2. 研究の目的

本研究では、大学における地域人材育成教育が卒業後の地域活動に与える中長期的な教育効果を検討することを目的とした。具体的には、大学の教養課程や専門課程における地域人材育成教育が、卒業後の地域貢献意欲や地域活動の成果にもたらす中長期的な効果とその発現過程を解明することを目的とした。これらの目的を達成するために、地域人材育成教育の受講経験を持つ卒業後 1 年～27 年の卒業生 300 名を対象とした調査を通して、次の 4 点を明らかにすることを目指した。

地域人材育成教育における学習経験

- ・卒業生は、地域人材育成教育(教養課程、専門課程)に対してどの程度熱心に取り組んでいたか
- ・卒業生は、地域人材育成教育(教養課程、専門課程)を通して何を学んだか

地域人材育成教育の中長期的な教育効果

- ・地域人材育成教育におけるどのような学習経験が卒業後の地域貢献意欲を形成するか
 - ・地域人材育成教育におけるどのような学習経験が卒業後の地域活動の成果を高めるか
- 上記の点を明らかにすることで、大学における地域人材育成教育が卒業後の地域活動にもたらす中長期的な教育効果とその発現過程を理論的に体系化することを目指して研究を行なった。

3. 研究の方法

調査対象 本研究では、地方公立 A 大学の卒業生を調査対象とした。A 大学は平成 6 年開学以来、「地域づくりを担うキーパーソン」の育成を目的として掲げ、教養課程では初年次生対象の全学的な地域密着型学習プログラムの他、専門課程では地域を題材とした研究室教育が行われている。

調査手続き 本研究では、当大学開学以降 2022 年までに地域へ輩出予定の卒業後 1 年から 27 年の卒業生 300 名を対象として、大学における地域人材育成教育が卒業後の地域活動に与える中長期的な教育効果とその発現過程を定量的に検討することを計画した。

当初の予定では、地方公立 A 大学の同窓会の場で調査を実施する計画を立てていたが、対面形式での同窓会がコロナ禍によってオンライン形式に変更となったため、電子媒体での調査を行うことになった。また、オンラインでは、多忙な社会人に対して多くの質問項目を提示し回答を得ることは難しいと判断したことから、今回の調査では定量的に測定するための質問項目では

なく、定性的な回答で情報を多く求める調査に切り替えた。

調査項目 主な調査項目として、現在の仕事について、大学における地域人材育成教育活動を通して得た学び、現在の仕事で役立っていると思われる大学の地域人材育成教育活動での学び、現在の社会人生活全般につながっている大学の地域人材育成教育活動での学び、について問う項目を提示した。いずれも自由記述で回答してもらった。また、現在の仕事について問う項目のほかに、大学での地域活動に実際に力を入れていた度合いを回答者本人(主観)と当時の担当教員(客観)のそれぞれに5段階で評価してもらう項目なども提示した。

4. 研究成果

地方公立A大学の卒業生148名から回答が得られた。ここでは、地域人材育成教育全般の卒業後にみられる影響を簡単に整理する。

(1) 大学における地域人材育成教育活動を通して得た学び

大学における地域人材育成教育活動を通して、どのような学びを得たと思うかを尋ねたところ、大きく3点が挙げられた。

第1は、社会人との関わり方である。具体的な記述は次の通りである。

- ・普通の大学生では経験できないような社会人の方とのふれあい。大人と話すことに慣れました
- ・あらゆる世代の人と話すコミュニケーション能力
- ・学生だけでなく、社会人の方と活動することで、大学生と社会人の考え方の違いを学べた
- ・挨拶、礼儀はもちろんのこと大人が学生に何を求めているかを気づかされた

第2は、地域への想いである。具体的な記述は次の通りである。

- ・知識としての学びより、人の思いを感じたことに対する学びが多かった
- ・大人たちの地域活性化への熱意を受け、このままでいけないと心から思った記憶がある

第3は、チーム活動に必要な習慣である。報告・連絡・相談の徹底や、周囲と協力すること、チームで活動する上でのスケジュール管理に必要な習慣や能力を得たという意見が多かった。具体的な記述は次の通りである。

- ・細かい報告・連絡・相談をすること
- ・協調性
- ・自分がリーダーの立場でなくても、自分はここでどう立ち回り、どうフォローすればよieldろうか、といったことを考えるようになった
- ・周りを巻き込む力を学びました
- ・段取りを決めて取り組む大切さ

(2) 大学における地域人材育成教育活動が現在の仕事にどのように役立っているか

大学における地域人材育成教育の活動で得た学びが、現在の仕事でどのように役立っているかを尋ねたところ、大きく3点が挙げられた。

第1は、周囲との関わり方に関するものである。具体的な記述は次の通りである。

- ・仕事の上でいろんな立場の方(顧客、自社同チーム、自社他チームなど)と調整ごとが必要になります。自分が望む結果を得るための依頼の仕方は感覚的な話ですが、研究室活動の中での経験則が役立っていると思ってます
- ・地域の方とよそ者が関わる難しさを経験したことがあったのは、よかったと思う

第2は、周囲への伝え方に関するものである。具体的な記述は次の通りである。

- ・新しい企画を立て、上司や決定者に決済をもらうための説明内容の組み立て
- ・メッセージが伝わるのではなく、どのように伝えるかということを経験させていただきました。今の仕事においても、短い時間の中で自分の思いを相手に伝えることは、とても重要なことだと思うので良い経験をさせてもらいました
- ・相手(お客様や後輩)へ、分かりやすい伝え方を考える癖がついたので、「なるほど、そういうことか」と反応がよく返ってくるようになりました

第3は、機器やツールに対する慣れに関するものである。具体的な記述は次の通りである。

- ・イラストレーターに触れられたのもイラストの仕事のきっかけになって感謝します。経験は新しいことに踏み出せる自信になります
- ・パソコン操作でスムーズに業務を行うことができたので役立ちました
- ・Photoshopを用いた商品販促用のPOP作成に役立った

(3) 大学における地域人材育成教育活動が現在の生活全般につながっていると思うこと

地域について学んだことや、そこで身についた学びが社会人生活全般において役立っていることがあるかを尋ねたところ、大きく4点が挙げられた。

第1は、周囲との関わりを大切にするようになったという回答である。具体的な記述は次の通りである。

- ・地域に限らず、できるだけ人と関わり、つながりを大切にしています
- ・地元の方に会うとすぐ話しかけてその場所特有のお話とかを聞いてしまいます

第2は、ボランティア活動に参加しているという回答である。具体的な記述は次の通りである。

- ・仕事とは別に、地元のイベントのボランティアを手伝い、地元発展につながればと活動しています

- ・卒業後も 団体に所属して精力的に活動した
- ・地域の人と関わりたいと思い、奉仕活動などに参加しています

第3は、地域の祭りに参加しているという回答である。具体的な記述は次の通りである。

- ・地域の祭りなどの行事への参加は心掛けるようになりました
- ・地区を盛り上げたかったので、夏祭りの運営に参加させてもらった

第4は、映像や写真などに関する映像や写真を発信しているという回答である。具体的な記述は次の通りである。

- ・「自分が良いと思うものを発信したい」という思いから、Instagram で地域の風景写真用アカウントを作って投稿しています
- ・仕事でも映像配信をはじめとした技術が求められるようになり、映像を扱う業務にあたっています

これらの結果は、地域人材育成教育全般の卒業後にもたらす影響を整理したものである。今後はトピックモデル等の統計解析手法を用いて記述内容の詳細な分析を行い、教養課程や専門課程それぞれの地域人材育成教育がもたらす影響を検討する。また、大学の地域人材育成教育が学生の卒業後の生活に与える影響を職務年数や職務内容との関係を踏まえながら検討し、成果をまとめた後、学術雑誌への論文投稿を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------